



地域に響いた 赤中声

9月13日(土)14日(日)に行われた第48回赤湯温泉ふるさと祭りにおいて、1学年が樽御輿、3学年が本神輿を担ぎお祭りを盛り上げました。当日は雨予報もありましたが、天候も落ち着き、赤中生らしい元気な声が街に響き渡りました。生徒たちの頑張りに沿道からも温かい激励の声をいただき、市外からお祭りを見にいらした方は「本当に中学生らしい活動でとても素晴らしい。いい教育を行っていますね」と、わざわざ声をかけてくださいました。生徒たちの「地域のために自分たちに何ができるか」という思いと、その思いに寄り添い支えてくださる地域の方々のお力添えで、今年度もねらいに基づく社会参画活動を展開することができました。ふるさと祭り実行委員会や龍桜会の皆様はじめ、ご支援ご協力いただきました多くの方々に厚く御礼申し上げます。

また、13日(土)には生徒会有志による「レモネードスタンド」の活動を行いました。この活動は、小児がんの理解促進と、現在病気と闘っている子どもたちに手を差し伸べる募金活動の一環として行われています。この活動の趣旨に賛同した生徒有志が240本のレモネードを完売しました。当日は、ご自身も小児がんを患った経験があり、この活動を行っている南陽市出身の平田寧々さん(大学2年生)にも一緒に活動していただくとともに、参加生徒へ激励を賜りました。



お手伝いいただいた平田寧々さん

第8回 吹奏楽部定期演奏会を開催

9月21日(日)、第8回吹奏楽部定期演奏会をシェルターなんようホールにて行いました。当日の演奏は、これまでの練習の成果が十分に発揮され、3年生を中心に生徒たち自身が趣向を凝らした曲紹介など、エンターテインメントとしても素晴らしい演奏会になりました。今回の定期演奏会には、本校生徒をはじめ、多くの保護者や地域の皆様にご来場いただきました。誠にありがとうございました。

また、開催にあたり、ご尽力賜りました多くの皆様に厚く御礼申し上げます。



奨励賞を受賞

9月17日（水）山形県少年の主張大会が山形市の遊学館で行われ、3年大浦瑞喜さんが出場し奨励賞を受賞しました。地区大会・

置賜ブロック大会と優秀な成績を収め、置賜ブロック代表として県大会の大舞台に立ち、堂々と自らの思いを発表しました。これまでの経験に裏打ちされた自信と成長を感じる素晴らしい内容を掲載します。

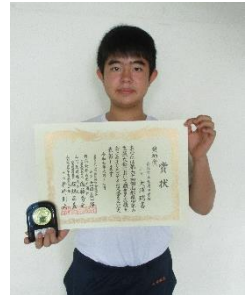
題名「二つの国のかけはしに」

南陽市立赤湯中学校3年 大浦 瑞喜

「みなさん、こんにちは。調子はいかがですか？ 私の名前は大浦瑞喜です。」

「大家好、ニーメンハオマ？ 我的名字 是 大浦瑞喜」

これは、赤湯中学校文化祭で行われる、地域ふれあい体験講座の中国語講座での発表の一コマです。昨年度は、地域の方々を講師に迎えて、花笠踊り、川柳、アマチュア無線など十八講座が開設されました。僕は二年続けて中国語講座を受講し、講座長を務めました。中国語講座では、簡単な挨拶や曜日、数字の数え方、そして基本的な文法を教えていただきました。普段、学校で中国語を話す機会も、友達同士で中国語で会話をする機会もまったくありません。そのため、僕は、毎年中国語講座をとっても楽しみにしているのです。中国語でみんなと会話をする時は、まるで違う世界にいるような感覚になり、とても新鮮に感じます。中国語の単語一つひとつの意味に意識を向けながら、ゆっくりと気持ちを伝えるのは、使い慣れた日本語とは、また違った楽しさがあると思います。



僕の母は、中国出身で、父は日本人です。母は、中国の北東部にある黒竜江省の中心都市の哈爾濱（ハルビン）という、冬はとても寒い地域で育ちました。美しい雪景色とロシア文化が混ざり合った異国情緒あふれる都市です。よく友達から、「家の中では何語を話すの？」と聞かれるのですが、基本的に父とは日本語、母とは中国語で会話をします。「行ってきます。」（中国語）、「ただいま」（中国語）、「今日学校はどうだった？」（中国語）など、基本的な日常会話は無理なく行うことができますが、中国語を書くことに関してはもう少し勉強が必要です。父は中国語の、母は日本語の会話が苦手なので、僕は幼い時から父と母の会話のつなぎ役をしています。だから僕の生活の中には、いつも日本語と日本文化、中国語と中国文化が共存しています。

そのため、小学校高学年の頃から、「将来は国際関係の仕事に就きたい。」と考えるようになりました。具体的には、通訳や空港職員など、自分の中国語のスキルをさらに磨き、民間レベルで日本と中国をつなぐ、かけはしになりたいと思っています。

日本と中国は、アジアで大きな影響力を持つ国同士です。歴史上では、様々な出来事があり、時には対立もありました。小学五年生の時、歴史好きな友達と「どこの国に行きたいか」という話をしていた時、たまたま中国の話題が出ました。その時初めて、母が中国人だということを伝えました。その友達は少し考えてこう言いました。

「日本と中国は昔戦争をしたから、あまり中国と仲良くないんだよね。」

それを聞いた時、（昔のことなんだから、あまり引きずらなくてもいいのにな。）と感じたのを覚えています。そういえば、中国に母と帰省した時、近所の方から心無い言葉をかけられたこともありました。確かに、戦争を経験している世代の方々の戦争当時の記憶は消えることはありません。それは、日本人にとっても中国人にとっても同じだといえます。

しかし、今では経済や文化面で深いつながりを持ち、貿易や観光での交流も盛んです。もちろん、政治や歴史に関する意見の相違もあります。領土問題や過去の戦争に関する記憶は、時に関係を難しくすることもあります。

だからこそ、戦争を知らない僕たちの世代は、お互いをもっと理解しようとする努力や交流が大切だと思うのです。今、中国では、和食の焼き魚が人気だそうです。僕は月英おばさんが作る、豚肉に甘酢をかけた「鍋包肉」という料理が中華料理の中で一番好きです。

このような、身近な食文化の情報交換でもいいのです。日本と中国がこれからも深いつながりを持ち、よい関係を築けるよう、今自分ができることを考え、取り組んでいきます。

「千里之路也人人一步開始」 「千里の道も一歩から」